JOMO SHIMBUN　平成4年（1992年）5月1日（金曜日）　第34918号（日刊）

上毛新聞
発行所（〒371）前橋市古市町1－50－21
上毛新聞社
電話 前橋(0272)51－4341(代表)
夜間・休日電話
(編集)4343・4344
(広告)4345・4346・(事業)4392
(出版)4347
(販売)4348・4363（電送）4363

© 上毛新聞社 1992

両毛5市の生涯学習ネットワーク

人材バンク構築

講師を相互派遣

施設の情報交換も

太田、桐生、館林市と栃木県の足利、佐野市の五市の教育委員会で組織する「両毛広域生涯学習ネットワーク推進会議」は、本年度から「人材」と「施設」に関する情報交換に取り組む。五市の各教委や行事、事業に活用する。

一つの自治体が持つ情報では、市民の学習需要にたえきれないため、広域で学習資源を活用しようというねらい。

同会議事務局の太田市教委によると、今後さらに「事業」「情報」面などでネットワーク化を研究する計画で、五市の個性を生かしながら、効率のよい化、学習施策が図れると期待されている。

両毛地域は行政エリアとは別に生活、経済圏を構成しており、市民の生涯学習に関する情報交換を通じて相互に連携を図りながら活性化策の意見交換を行っている。

こうした中で、昨年夏には五市の教育長が話し合い、高齢化社会の進展に伴って充実が求められる生涯学習で交流を深めることで一致。各市教委を窓口に両毛広域生涯学習ネットワーク推進会議を発足、研究を進めてきた。

同会議は昨年始めとして、本年度に「人材」のネットワーク化に着手する。改革・ネットワーク化に研究するなど。

福祉、趣味、生活、スポーツ、芸能、音楽、美術、教養、文化財、伝統文化など、事業、放送、教材、文化財、伝統職人、芸術家などに関する「情報」についてもネットワーク化を研究する。

終的には五市教委がキーステーションを設け、個人が持つ両毛五市の情報を引き出せるようにする考えだ。

パソコンと結び、各家庭で両毛五市の情報を引き出せるよ

再開発ビルの管理会社設立へ

沼田市など

沼田市と同市下之町地区市街地再開発組合（白澤順一理事長）は、同地区で建築中の再開発ビル「グリーンベル・21」を管理運営する「沼田都市開発」（仮称）を第三セクター方式で近日にも設立することになった。

再開発ビルは、都市再開発事業法に基づく法定再開発事業であり、同組合が施工者。沼田市指導、食料品や日用雑貨の販売、鉄骨・鉄筋五階建て（地下一階）の市立図書館の三階が建設される。今月中に設立準備会を発起人会を開き、六月に株主の募集、申し込み、割り当てなどを行い、年内に法人として設立される見通し。同市の出資比率は今のところ未定だ。

中核施設が完成

榛名の湧水でせせらぎ

群馬町の三ツ寺公園

群馬郡群馬町の同町三ツ寺地区で進めている三ツ寺公園の中心施設となる「みどり公園」が三月末までにほぼ完成した。今秋、三ツ寺場とその周辺整備を進め、釣り場ソーンやボート乗り場などの工事を実施、本年度末までに全面完成する予定だ。同公園は上越新幹線・榛名トンネルの湧（ゆう）水を園内の滝や池に利用しているのが特徴で、湧水を利用した公園は県内では初めてとなる。

三ツ寺公園は人口増と都市化急速に進む群馬町が、同地区の三ツ寺場など豊かな自然を生かした総合公園として整備、将来的には約十ヘクタールの公園規模を見込んでいる。

水と緑が公園はこの中核施設となり、レクリエーション、教養保全、防災など多機能を持つ公園として、自治会の「ふるさとづくり推別対策事業」の指定を受け平成元年度から整備している。全体面積は六、四ヘクタール。総事業費は約二十億、二万円。前年度までに五市の教育長が話し合い、高齢化社会の進展に伴って充実が求められる生涯学習で交流を深めることで一致。各市教委を窓口に両毛広域生涯学習ネットワーク推進会議を発足、研究を進めてきた。

同会議は昨年始めとして、本年度に「人材」のネットワーク化に着手する。改革・ネットワーク化に研究するなど。

▲完成した日本庭園などの親水ゾーン

三ツ寺場を取り巻くゾーンを除いた部分で、高低差約六メートルの自然地形を利用して造られている。園内は大きく親水、自然地形を利用して造られている。園内は大きく親水、自然水を利用した総合公園として、水ゾーンには高さ約三メートルの滝がある日本庭園、ショウブ園、水車小屋、鶴が舞う形の本堂、上毛三山をイメージした噴流すぎ石などがある。これらを結ぶ歩道から約四百メートルの流れ目量九、十方。現在、渋川市と吉岡町、榛東村、群馬町の一部の地域